

株主様各位

株主の皆様へ、弊社の再生の方向性をご理解いただくために平成20年1月29日(火)に開催致しました株主様説明会の資料をご共有させていただきます。

**株式会社 メディアイノベーション
代表取締役社長 穂谷野 智**

株主様説明会

2008.1.29

株式会社メディアイノベーション

この資料は、株式会社メディアイノベーションが著作権その他の権利を有するものです。
この中には弊社に単独所有権がある企業秘密および極秘情報が含まれています。
この資料は、弊社の明確な同意を得ずに、その全部または一部を使用、複製、コピー、公表、伝達することはできません。

■ 説明会開催の目的

ライブドア事件後2年が経過し、当初より検討してきたライブドア事件後の再生シナリオと今後の再生最終フェーズへ向けた骨太の方針の共有についてご説明をさせて頂く為に、株主皆様のご理解を頂戴いたしたくお時間を頂戴いたしました。

本日はよろしくお願いをいたします。

本説明会でお答えできる株主様の疑問

(1)そもそもどんな再生方針を検討してきたのか？

～「経営陣として何を重視して、運営してきたのか？」～



(2)その方針に基づき、どんなことを実行してきたのか？

～「行き当たりばったりで赤字を垂れ流してきたのではないのか？」～



(3)再生を阻む、最も大きな制約は何なのか？

～「経営能力、営業能力が足りないのでは？」～



(4)今後、どうやって再生を果たすの？そもそもそれが可能なのか？

～「事業清算したほうが良いのでは？」～

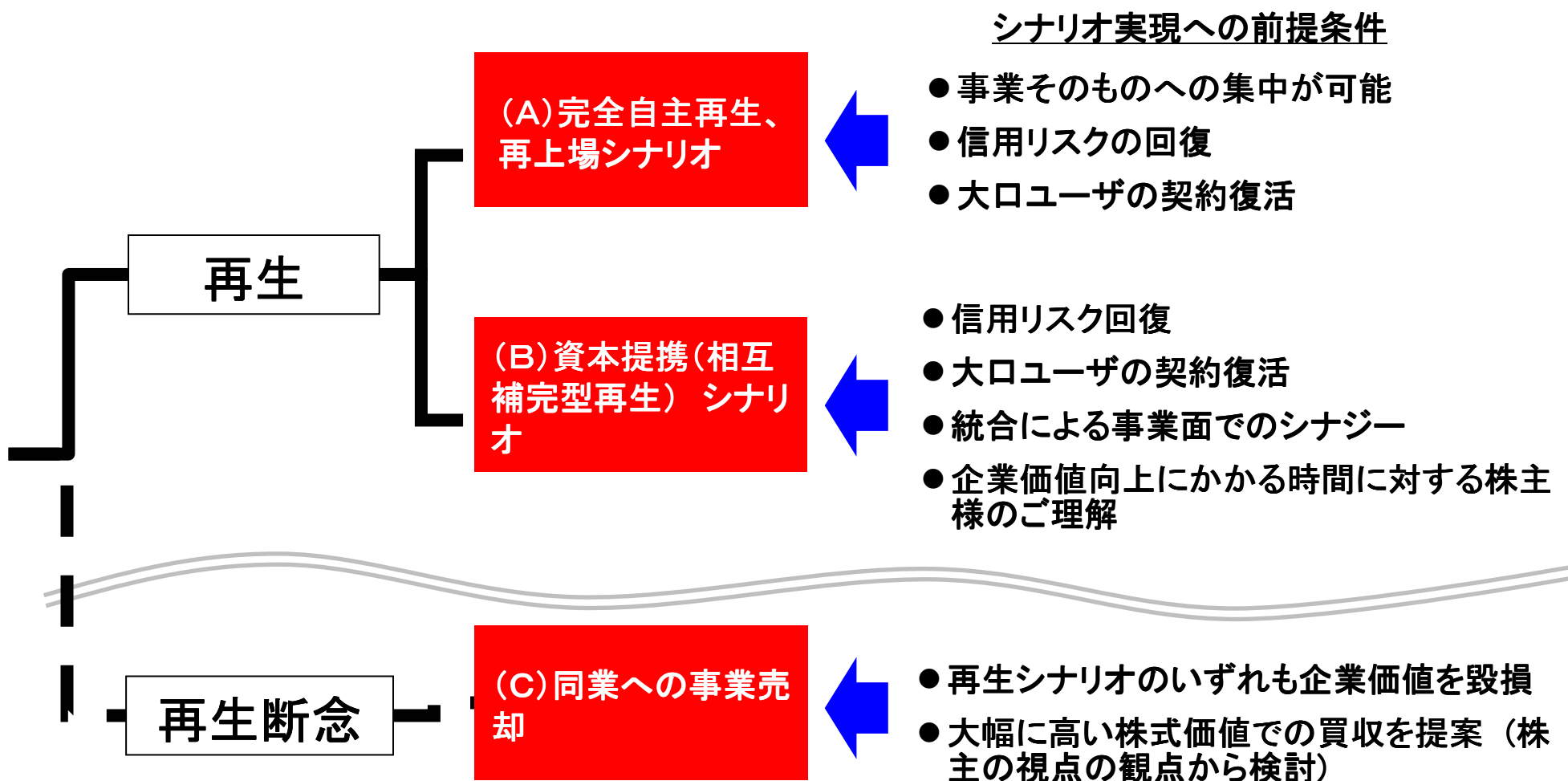


(5)その結果、私たち株主が享受できる利益はどうなるのか？

～「いつの時点で、どのような手段で、どの程度回収できるのか？」～

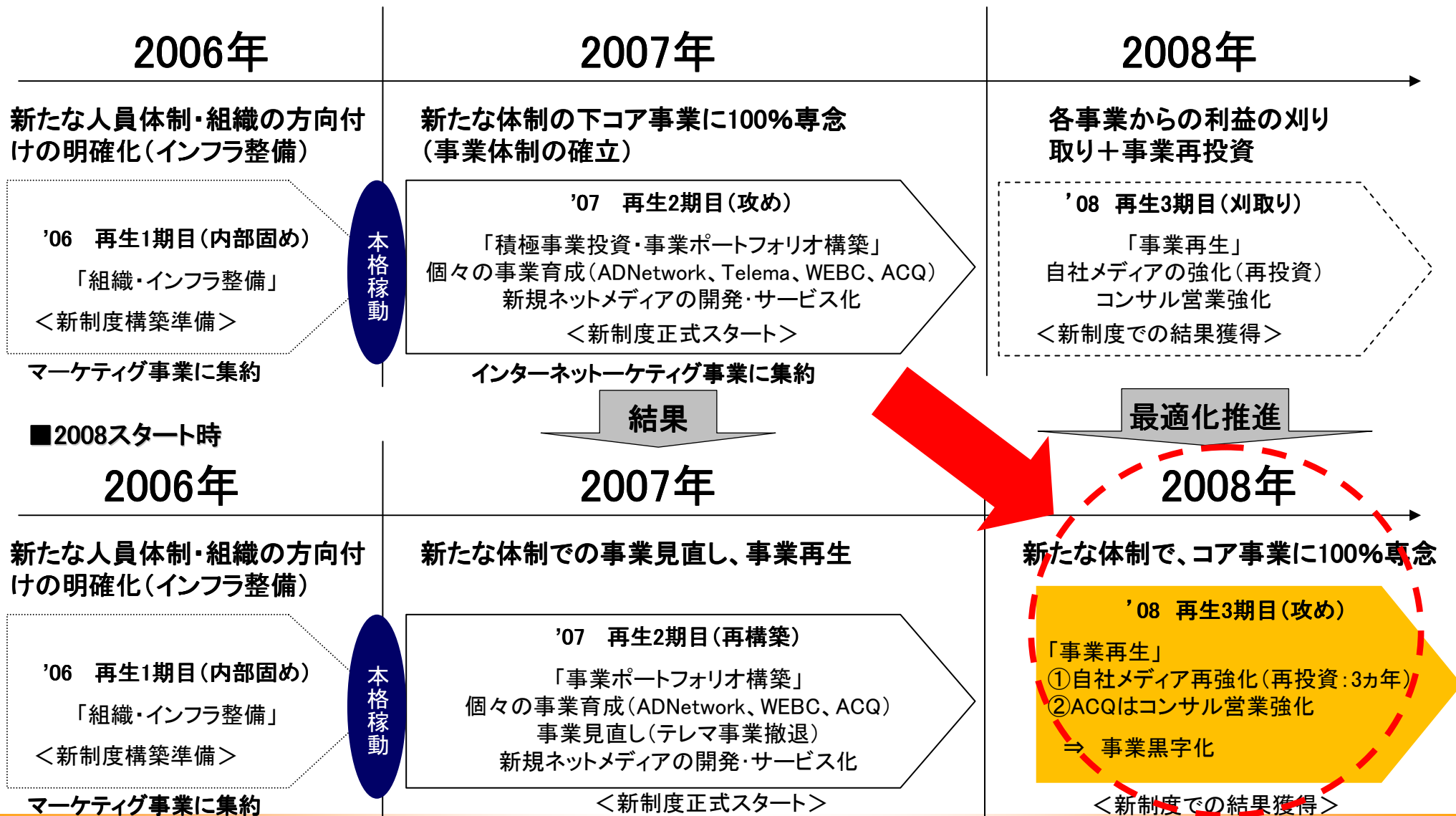
再生シナリオの前提 (方針)

最悪の状況を含め、大きく3つのシナリオを共有。
同時に、各シナリオの前提条件を確認してきました。



3カ年(06、07、08年度)再生プラン進捗

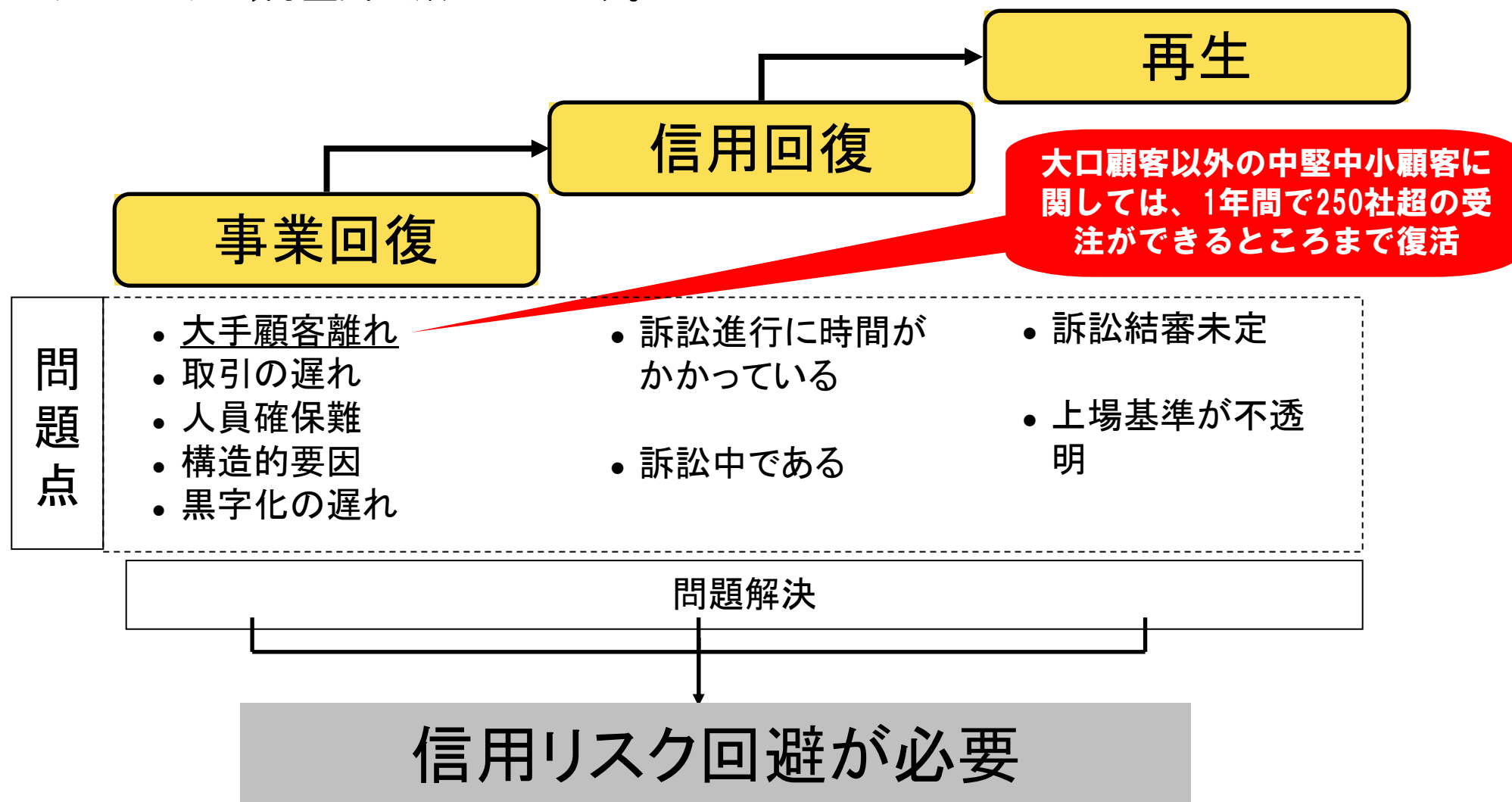
基本方針に変更なし。信用リスクで大口顧客復活に難。約半年遅れで計画が進捗。



1. 事業再生について

事業再生へのプロセスと課題

最終的な再生までには3段階のステップが存在します。 いずれも信用リスクの回避が現時点における最も重要な課題となります。



■ 弊社再生問題点のポイント整理

前項までのポイントを整理すると、以下の2点に集約されます。

- 信用リスク回避なしでは事業の拡大スピード遅く、拡大可能性が低い。事業再生を加速化する為には、信用リスク回避が必要。また、信用リスクの回避なしにして、設備投資型事業であるアドネットワークの規模拡大(年間20億インプレッション)は困難

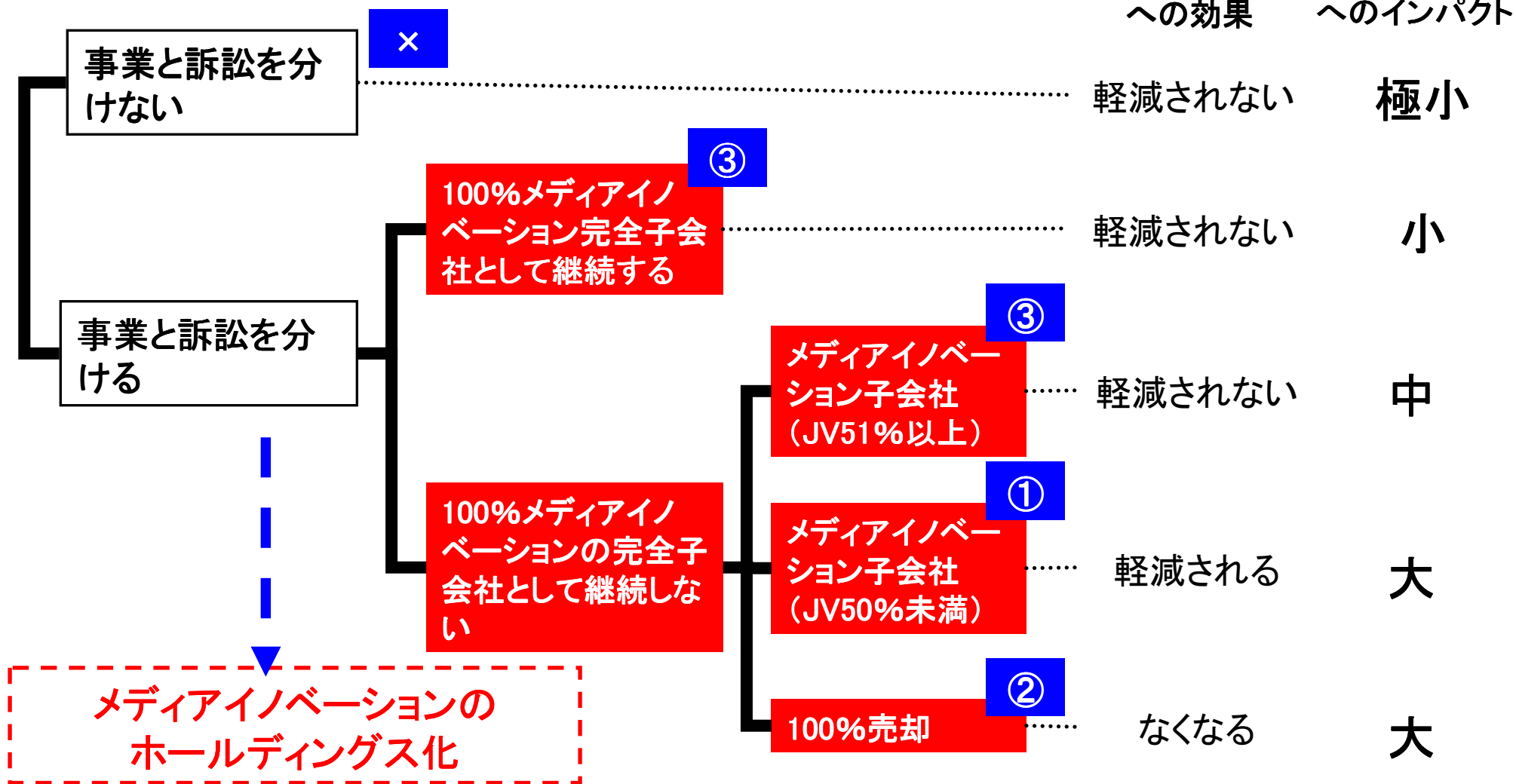
⇒事業と訴訟を分ける必要性がある

- 一度上場が廃止されている企業に対する再上場ガイドラインは明確なものが存在していないと同時に、法令整備が完了する時期についても現状では定かではない

⇒仮に事業再生を実現しても、訴訟(最終昨年5月提訴)を抱えたメディアイノベーションでの再上場の実現可能性は不明。実現可能性が未知の中での、メディアイノベーションでの上場の検討は断念せざるを得ない

再生に向けたボトルネックの解消

「信用リスク」の観点から見た選択肢は以下のとおりです。



JVスキームのメリット・デメリット

現状維持の場合と、JVスキームを実行する場合の、各利害関係者にとってのメリットおよびデメリットは以下のとおりです。

■株主含む利害関係者メリット・デメリット

方法	メリット・デメリット	評価項目	株主様	お客様	関係会社様	従業員	社会
現状継続	メリット	上場可能性	V				
	デメリット	上場・配当は未定(長期?)	V				
		資産減少可能性	V				
		信用リスク		V	V		V
		モチベーション				V	
JVスキーム	メリット	株式売却益	V				
		子会社持分の配当、上場可能性	V				
		シナジーにより事業回復スピード、規模UP	V			V	V
		信用リスク軽減		V	V		V
		モチベーション				V	
	デメリット	旧会社100%での上場はなし	V				
		訴訟・会社運営費用は継続	V				
		JV先の競合があれば不利		V	V		

株主様(JVスキームメリット、デメリット)サマリ

事業子会社に資本提携パートナーを選定し、合弁事業(JV)とする場合の、株主様にとってのメリットおよびデメリットを整理すると、以下のとおりです。

■メリット

- ・株式売却益 (100%売却検討も、プレミアムが見込めなかった為、検討対象外とした)
- ・子会社持分の配当、上場可能性
(これによる株主様への還元)
- ・信用リスク回避と業務シナジーによる事業回復
スピード、規模のアップ

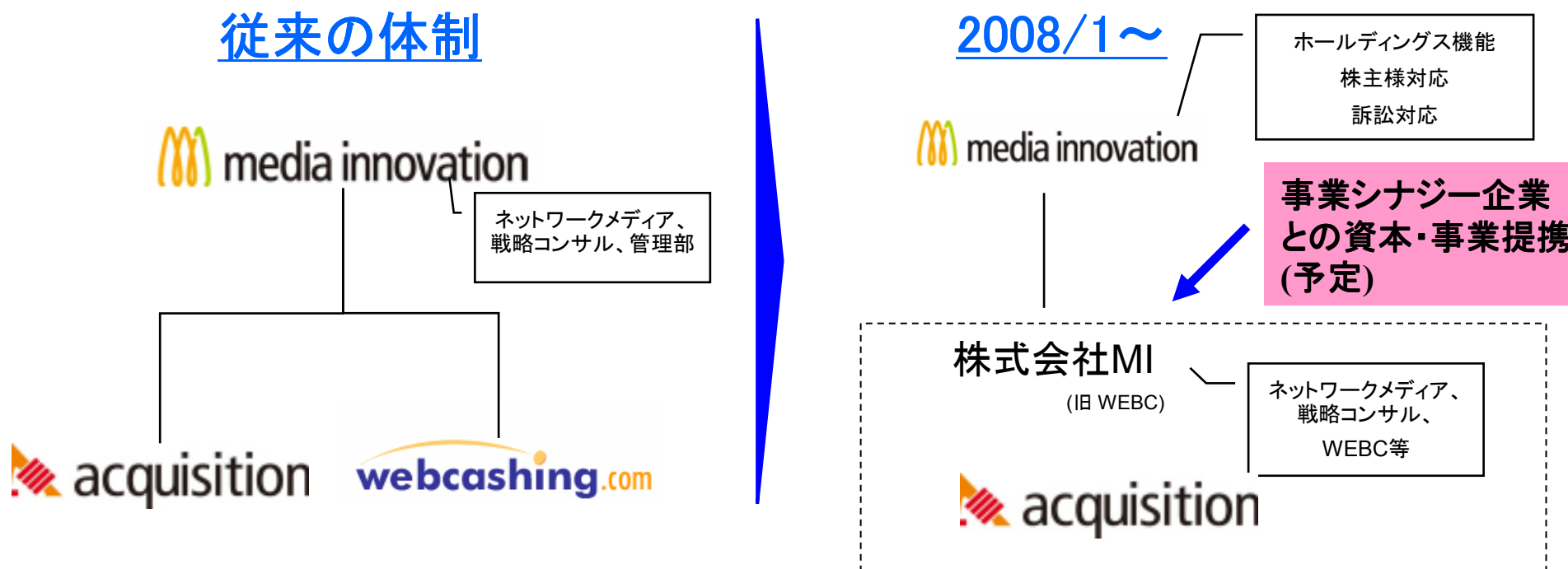
■デメリット

- ・旧会社100%での上場可能性がなくなる

事業と訴訟に対応した新スキーム

事業と訴訟分離し、信用リスク回復と事業回復の実現する際のポイントは以下のとおりです。

- ◆ 訴訟と事業との切り離しを行うことを目的に、メディアイノベーションを**ホールディングス機能**の会社にする。
- ◆ 本年度より旧ウェブキャッシングに旧メディアイノベーションにある事業を移管させ、旧ウェブキャッシングを**株式会社MIと社名変更**しメディア事業会社としました。
- ◆ ホールディングス化により訴訟が切り離され、**信用リスクの排除**。
- ◆ **事業会社(株)MIと事業成長シナジーのある企業と資本・業務提携を推進**



▶ JVパートナーのプロセス

事業子会社のJVパートナー選定から締結までのプロセスは以下のとおりになります。

■ JV先選定プロセス

アドバイザーを通じ、JV先候補先を選定(シナジー企業)



一次入札:JV候補先に対し、一次入札参加の為の表明を依頼、実施



二次入札:シナジー・金額を考慮したビッドにより候補先を絞り、二次DDを依頼、実施



最終候補先の決定



JV契約締結

株主様にご理解を頂きたい件

本説明会にてご確認いただきたい事項は以下のとおりです。

- **メディアイノベーションはホールディングス
カンパニーへと生まれ変わりました
(訴訟対応、子会社管理がメイン)**
- **事業はJVで行う予定です。JVが決まった場合、
JV先からの出資比率分の株式譲渡金受領、JV先から
の配当が予定されております**

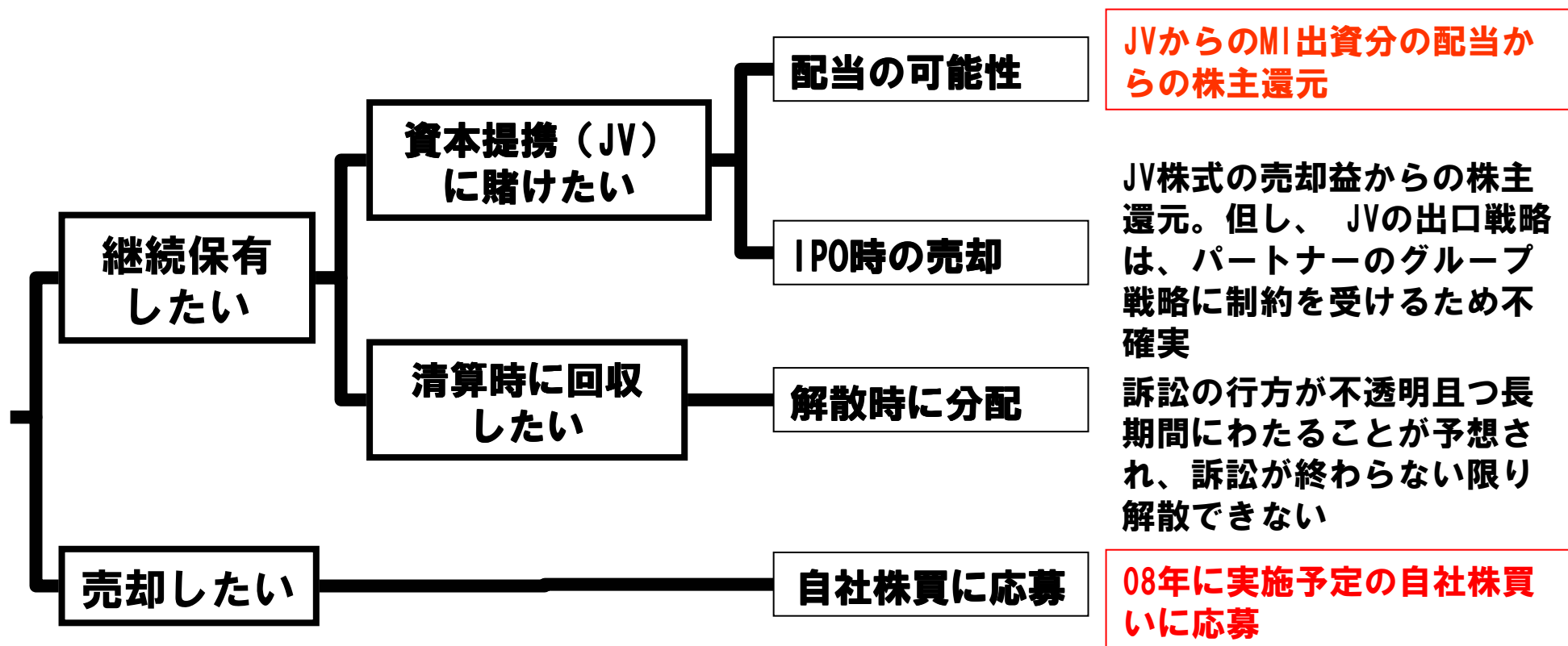
今後のJVスキームを実行する場合、株主様のご理解を頂戴し、株主総会にてご承認を頂けますようお願いを申し上げます

***JV契約の締結には、株価算定、事業シナジーを中心に、総合的な判断と各種条件の合意が前提となるため、締結に至らない可能性があることもあわせてご理解ください。**

2. 株主様への還元について

株主様の選択肢

株主様への還元として大きく、以下2つの選択肢を用意するように計画をしております。



自社株買いの予定プロセス

自社株買いの実施を、以下のとおり検討しております。

■ 自社株買い実施プロセス

第三者の株式算定アドバイザーに、弊社株式価値算定を依頼

訴訟リスク、将来価値、変動指数を考慮し算定

算定結果等を踏まえ、諸事情を考慮し、取締役会にて自己株買いの実施の有無及び合理的な買取価格を決定

(実施する場合) 株主総会に上程 (3月27日予定)

(実施する場合) 株主総会で承認頂き、正式な買取通知を行い自社株買いを実施